

陝北山歌「信天游」における 1 人称代名詞
“奴” について

川 澄 哲 也

松 山 大 学
言語文化研究 第39卷第2号 (抜刷)
2020年3月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 39 No. 2 March 2020

陝北山歌「信天游」における1人称代名詞 “奴”について

川 澄 哲 也

1 序 言

増野, 孟 (2006) は, 主に明代の小説『金瓶梅詞話』を材料に, 近代漢語における1人称代名詞“奴¹⁾”の用法を語用論の観点から分析し, 以下の諸特徴を指摘した:

- a. “奴”を使うのは一定の地位を持つ既婚の女性²⁾である。
- b. 初対面時などの改まった場面において用いられる。
- c. 自分と同等あるいは自分より地位が高い相手との会話で使う。

この1人称代名詞“奴”はその後、『紅樓夢』等の清代文献では“使用回数はかなり少なくなって”おり, 現代の標準的な漢語変種に至っては“姿を完全に消している”(増野, 孟 2006: 423)。

このような流れの傍らで, 陝西省で歌われている各種の民謡では, 今日においても, 歌詞の中に1人称代名詞“奴”が現れることがある³⁾。本稿は陝西省北

1) “奴家”という形で現れることもある。両者に意味上の区別は認められないため, 本稿では“奴”によって両者を代表させることもある。

2) 清代の錢大昕『十駕齋養新録』巻19「婦人稱奴」の項によれば, “奴”は宋代より女性の自称専用になったという(“婦人自稱奴, 蓋始於宋時”)。

3) 確認し得た資料の範囲内では, この点に初めて言及した論考は高杰 (1998) である。高杰 (1998) は陝西省北部の民謡「信天游」の発生時期を考察する過程で, 歌詞に“奴”が繰り返し現れることを指摘している。

部の山歌「信天游」を対象とし⁴⁾、“奴”の用例を提示するとともに、それが指し示す人物の性別、或いは既婚／未婚の別について考察を加える。小説に比べて文脈に乏しい歌詞⁵⁾を題材とするため、増野、孟（2006）のような語用論的考察を行うためには現地での歌い手等に対する聞き取り調査が欠かせないが、本研究はその準備作業としての位置付けももっている。

2 題材について

本論に入る前に、第2節では、本稿の題材である信天游について概説し⁶⁾、あわせて本稿の例示法に関する方針を述べる。

信天游は、陝西省榆林、延安両市一帯、いわゆる陝北地域で歌われる山歌の一種である。その歌詞は、恋愛や結婚をテーマにしたものが多いが、新中国を賛美する内容の歌詞も散見される。

歌詞の形式は2句で一まとまりを基本とし、両句末で韻を踏む。1句は7文字が原則とされているが、8文字以上からなる句もしばしば見られる。

信天游の歌詞にはまた、方言語彙が多く用いられており、当該方言の専門家でなければ正確に訳出することが難しい。そのため、本稿では用例全体に対する和訳は付さない。但し、“奴”の指示対象の性別や既婚／未婚の別を判断するための決め手となり得る語句については、必要に応じて和訳を示す。また引用する分量は、上述した2点の判断を下すために必要な範囲を基本とする。

4) 信天游以外の陝西省の民謡については資料不足のため本稿では考察対象としない。今後関連資料の収集を進め、考察対象に含めたい。

5) 陝西省北部、榆林市清澗県出身の劉勳寧明海大学教授によれば、当地でも日常の会話にまで“奴”を用いることはないという（2019/09/05, emailにて）。

6) 本節の信天游に関する記述は主に《中国民間歌曲集成・陝西巻》, pp. 79-81に基づく。

3 「信天游」における“奴”

本節では王、于（1987）、楊編（1995）、およびその他いくつかの資料から採取した“奴”の用例を網羅的に提示し、それぞれが指示する対象について考察を加える⁷⁾。

3.1 王、于（1987）所収の用例

王、于（1987）は信天游の歌詞を集めた文献である。王、于（1987）からは“奴”および“奴家”の用例が合計35例見出された。以下、それぞれについて検討していく。

1) 黑心鬼媒人好吃两片糕，把**奴家**葬进了黑圪落。

媒婆子害人没深浅，把**奴家**闪进个阎王殿。

(pp. 6-7. 以下、用例中の強調は筆者による)

本例の“奴家”は“媒人（仲人）”“媒婆子（縁談をとりもつ女性）”の仲介によって結婚相手の家に入れられた対象であると理解できる。既婚の女性を指していると解釈するのが自然だろう。

2) 墙头上种瓜扎不下根，寻的**那个人家不可奴**的心。

人家长短全不管，没给**奴家**寻个可心汉。(p. 10)

本例の“奴（家）”は“可心汉（望み通りの男性）”をあてがわれなかったことを嘆いているため、既婚女性の自称であると判断できる⁸⁾。実は本例について

7) 本稿で扱う資料以外に、より大部のものとして《中国民间歌曲集成・陝西卷》もあるが、信天游に限って言えば同書にはp. 86に“奴家”の例が1例見られるのみである（本稿の用例17と同じ例）。

は創作背景が判明しており、1930年代頃に延安の李という苗字の女性が嫁ぎ先での困難を歌った作品であるという⁹⁾

3) 不是**奴家**嫌汉小, 嫌他长了个囚犯脑。

大麻地里点黑豆, 我是你家的活寡妇! (p. 12)

本例の“奴家”は“汉(男性)”の“活寡妇(夫と生別している女性)”であると解釈できるため、既婚女性の自称であろう。

4) 豌豆开花麦穗穗长, **奴**妈妈卖**奴**没商量。

放下平川她不卖, 把**奴**卖在高山上。

东沟里拔草喂牛羊, 西沟里担水泪汪汪。

下坡磨了**奴家**鞋尖尖, 上坡磨了**奴家**鞋边边。(p. 13)

“卖(売る)”の対象である点から、本例中の“奴”は女性を指している可能性が高い。終盤4句は結婚生活の苦労を述べていると推測できる¹⁰⁾。そのため“奴”は既婚者と考えたい。

5) 只说女婿赶¹¹⁾ **奴**强, 又秃又瞎又尿床。

头一晚尿湿红绫被, 二一晚尿湿我小衣裳。

三一晚和**奴**颠倒睡, 热呼呼尿在我脖颈上。

(中略)

不是你姐姐不是你的娘, **奴家**打你是为尿床。(p. 14)

8) なお本例の直前には“斗大的西瓜碗粗的根, 他那个憨大大不可**我**的心。”という歌詞があり、“奴”と“我”の間に明確な使い分け規則がないことをうかがわせる。後掲の脚注18も参照。

9) 龙(2015), p. 42 参照。

10) 5～6句目は「東の谷で草を抜いて牛、羊に食ませ、西の谷から水を担って涙がいっぱい」くらいの意味か。

本例は“女婿（夫）”の“尿床（寝小便）”を嘆く内容であるため，“奴”は女性既婚者であることがわかる。

6) 土瞎蛔出洞畔畔上溜，寻的个男人是个二大流。

奴妈妈生奴九菊花，给奴家寻了个丑南瓜。(p. 16)

“丑(醜)南瓜”は“男人”に対する比喩だろう。“奴”はその配偶者だと解釈できるため、既婚女性の自称と考えられる。

7) 头发黑来脸脸白，奴的名字就叫美女人。

荞麦开花花包头，今年学下个交朋友。(p. 52)

“奴”はその名を“美女人”と称しているため、女性を指しているだろう。“今年学下个交朋友（今年[男女の]付き合いを学び始めた）”という句から判断すると、未婚である可能性が高い。

8) 你是谁家的女兰花？ 今年的岁数有多大？

我是张家女兰花，过了新年整十八。

头上的金簪谁与你打？ 脸上的胭粉谁与你搽？

头上的金簪我哥与我打，脸上的胭粉奴家自己搽。

身上红袄谁与你纳？ 脚上绣鞋谁与你扎？

身上红袄我嫂与我纳，脚上绣鞋奴家自己扎。

你能给我两三拜，我给你寻个好女婿。(pp. 61-62)

本例は問答形式になっていると思われる（奇数行＝問，偶数行＝答）。“奴家”は1，3句目の“女兰花”と同一人物である。最終句“我给你寻个好女婿11) “赶”に対して王、于（1987：14）は“比的意思”と注釈している。

(私はあなたに良い夫を見つけてあげよう)”から判断すれば，“奴家”が指す女性は無婚であろう。

9) 只要哥哥坐在了奴跟前，要比口噙上砂糖满口口甜。

哥哥出门多几天，奴在家里害麻烦。

哥哥他在水套上站，奴在家里纺不成线。

哥哥他在硷畔上站，还不如坐在奴跟前。

只要哥哥坐在奴跟前，还不如咱二人面对面。

哥哥他在碾盘上坐，奴怀抱娃娃假做活。

不是为了要做活，单为的还是看哥哥。

哥哥上在窑畔坡，后跟上奴家叫哥哥。(pp. 130-131)

本例の“奴”はいずれも“哥哥（好意をもつ男性に対する呼称）¹²⁾”に「語りかけて」いるため、女性であることは明白である。また“怀抱娃娃（赤ん坊を抱く）”という句より、既婚と考えたい。

10) 你再不要忽撩忽撩往我家里跑，奴妈妈打得奴家受不了。(p. 206)

杨编（1995：134）に，“忽撩忽撩地”に対する注釈として“在女朋友面前绕来绕去的意思（女友達の前をうろつくの意）”とある。ここから“你”が男性，“奴”が女性を指すことが明らかである。また語釈中の“女朋友（女友達）”の語から，2人は無婚であると判断したい。

11) 把奴剃成八疙瘩，魂灵也要跑到哥哥家！（p. 217）

12) 龙（2015：100）によれば，信天游では“哥哥”は対象の既婚／無婚を問わず用いることができるという。

その魂が“哥哥家（好きな男性の家）”に向かうという内容なので，“奴”は女性を指すと考えるのが自然だろう。

12) 前沟里有雨后沟里的风，我为我的哥哥许上一口牲。

尔格的神神满不灵，你不给**奴家**来托梦。(pp. 287-288)

“我的哥哥（私の好きな男性）”とあるため，“我”と同じ一人称の“奴家”も女性の自称と考えられる。

13) **奴想奴的哥哥**【土+金】¹³⁾ 畔上站，心里头话儿拉不完。(p. 313)

“哥哥”を想っている点から，“奴”は女性の自称と考えられる。

14) 你娶**奴**呀一十七，今年**奴家**二十一。(p. 330)

“奴（家）”は“娶（娶る）”の対象であるため，既婚女性と解釈できる。

15) 我想哥哥天天哭，不知道哥哥想我不？

一对红鞋两点点，忘记了**奴家**的白脸脸？(p. 346)

“哥哥”を想っている点から，“奴家”を含む本例の一人称はいずれも女性を指すと考えられる。

3.2 杨编（1995）所収の用例

続いて本節では杨编（1995）中の用例を検討する。杨编（1995）は信天游の曲譜集であるが，合わせて歌詞も収録している。同書からの総用例数は16である。

13) 該当するフォントが使用できない場合は【 】内に部首と旁を分けて記す。

16) 倒灶鬼媒人好吃糕, 把**奴家**掇在乡圪【土+劳】。(p. 43)

“掇”には“强行出嫁（強引に嫁に出す）”と注釈がある（ibid.）。“出嫁”の話からこの“奴家”は既婚女性を指していることがわかる。

17) 十三岁上订亲十四岁上引,¹⁴⁾ 十五岁守寡到了如今。

奴家的男人一十六, 一十七岁偷走西口。(pp. 131-132)

前半句¹⁵⁾より、ここの“男人”は夫を表すと解釈できるため、“奴家”は既婚女性の自称であることがわかる。

18) 你再不要忽撩忽撩地跑, **奴妈妈**打**奴**活不了。(pp. 133-134)

本例は3.1節の用例10に似ている。用例10と同じく、“忽撩忽撩”という表現から“奴”は女性の自称であると考えられる。

19) 放下平川她不卖, 把**奴家**卖在高山。上。

奴妈妈生**奴**九菊花, 给**奴家**寻了个丑南瓜。(p. 181)

本例の後半は3.1節で挙げた例6と同じである。“卖（売る）”の対象である点や菊の花に譬えている点から、“奴（家）”は女性を指している可能性が高い¹⁶⁾。

14) “引”に対して《中国民间歌曲集成・陕西卷》, p. 86は“〈方言〉ying, 即迎娶”と注釈している。

15) 1～2句目は「13歳で婚約して14歳で娶る。15歳で寡婦暮らしをして今日に至る」とでも訳せようか。

16) 後掲の用例24も参照。

20) 墙头上种瓜扎不下根, 寻的婆家不可**奴家**心。

大麻地里点黑豆呀, 我是婆家抬来的活寡妇呀。(p. 185)

本例の前半は3.1節で挙げた用例2に似ている。ここでは最後の句から“我”と“活寡妇(夫と生別している女性)”が同一人物であるとわかる。そのため“奴家”も既婚女性の自称と判断できる。

21) **奴想奴哥哥**【土+金】畔上站, 心里头话儿说不完。

清水河河长流水, 我在这家里等着你。(p. 229)

“奴”が“哥哥”を想っている点から, “奴”は女性を指していると判断できる。

22) 你再不要忽撩忽撩的跑, **奴妈妈打奴**受不了。(p. 236)

上掲の用例10や18と同じ理由で, “奴”は女性を指していると言える。

23) 小妹年轻十七八, 怕你把**奴家**单闪下。(pp. 239-240)

“小妹”は女性の謙称であるため, “奴家”も女性を指していることが明らかである。

24) **奴妈妈生奴**九菊花, 你给我寻得几个丑南瓜。

毛疙瘩柳树空壳郎, 寻的个男人是二圪梁。(p. 257)

前半部分は上掲した用例6や19に似ている。本例では後半部分から“奴”の結婚相手が“男人”であるとはわかるので, “奴”は女性を指していると考え

られる。

3.3 その他の資料に所収の用例

本節では龍（2015）および王（2019）に見られた“奴”の用例を提示する。両書は信天游の研究書であるが、随所に歌詞も掲げられている。

龍（2015）からは以下の20例が見つかった。

- 25) 不爱你的房子不爱你的地，四十几的老汉娶花妻，
奴家今年一十七，我的男人四十一，咱俩个把婚离。(p. 88)

本例の“奴家”は、“老汉／男人”と離婚する配偶者を指すため、既婚の女性である。なお本例の後には離婚証の記入や受領といった内容が続くため、離婚法制が確立された後の、比較的最近の創作であると考えられる。

- 26) 头一夜他和**奴**同床睡，尿湿了**奴家**红绫被。
 二一夜他和**奴**同了床，给**奴家**尿在脖子上。
 尿在脖子上生了**奴**的气，我揣了只绣鞋打女婿。(p. 103)

本例の主題は上掲用例5に似ている。“女婿（夫）”の寝小便に腹を立てている“奴（家）”はやはり既婚女性を指しているだろう。

- 27) 绣鸳鸯绣得**奴家**渴，酒儿自管斟，盅儿无有腿。
 (中略)
 冰冻上冻得**奴家**渴，酒儿自管斟，盅儿无有腿。(p. 109)

“绣鸳鸯（オシドリを刺繍する）”という表現から、“奴家”は女性を指している可能性が高い。

- 28) 一更价来月当顶, 思想起奴的哥哥泪淋淋。
 三更里来星儿稀, 想起奴的哥哥回来哩。
 五更价里来天色亮, 想起奴的哥哥忙起床。(p. 110)

いずれの“奴”も“哥哥”を想っており、女性の自称であることは間違いないだろう。

- 29) 女婿七岁奴十八, 七岁十八配成双。(p. 150)

7歳の“女婿(夫)”をあてがわれた“奴”は疑いなく既婚の女性である¹⁷⁾

- 30) 头一夜尿湿了红绫被, 二一夜尿湿了象牙床;
 三一夜和奴颠倒睡, 热呼呼尿在奴的脖颈上;(p. 162)

先掲の用例5や26と類似の内容であり、“奴”は既婚女性の自称であろう¹⁸⁾

- 31) 提起个家来家有名, 家住在绥德三十里铺村,
 四妹子着了个三哥哥, 他是奴的知心人。
 (中略)
 三哥哥今年一十九, 四妹子今年一十六,
 人人都说咱二人天配就, 你把奴家闪在半路口。
 (中略)
 睡到半夜里梦了一个梦, 梦见三哥哥上了奴的身,
 慌忙忙就把那腰揆定, 醒来是一场空。

17) かつて陝北でこのような「婚姻」が行われていたことについては、龍(2015:151)や王(2019:123)に解説がある。

18) 本例最終句と用例5の“热呼呼尿在我脖颈上”を比較すると、“奴”と“我”には厳密な使い分け規則はないと言えそうである。

想起了三哥哥细嘟念，**奴**的老妈妈把**奴**嚼，
茅坑里头哭几声，哭了几声三哥哥。(p. 297)

“奴(家)”は“三哥哥”を想っているため、女性の自称であると考えられる。

次の用例 32 は、この用例 31 に近年追加で創作されたもの(の一部)であるという(龍 2015: 298)。

32) 三哥哥焔格腾腾家里盛，毛主席命令来征兵，
征兵征在三哥哥的身，急的**奴家**心锤疼。(p. 298)

続いて、王(2019)所収の7例を挙げる。

33) 十三岁定了亲，十四岁上把**奴**迎，十五岁上又守寡，直到现如今。
奴家本丈夫，年纪十六岁，十六岁上就偷走，走了山西路。
上也无老靠，下也无儿孝，难得**奴家**无奈何，才把伙计搭。
(中略)
打开信纸来写信，捎给我知心人，叫一声李德才，回家把**奴**看。
(pp. 132-133)

本例の前半は上掲の用例 17 に似ている。“迎”は“迎娶(娶る)”を表すと考えられ(脚注 14 参照)，その対象である“奴(家)”は既婚女性だと判断できる。

34) 白个生生半衫把奶头罩，十字路口把人绕¹⁹⁾
叫声哥哥上炕炕，快给**奴家**宽衣裳……(p. 141)

19) 王(2019), p. 141 には“绕”に対して“勾引(誘う)”という注釈がある。

本例は“奴家”が男性を誘惑している内容であり、女性を指していることは間違いないだろう。

35) 正月里娶过奴，二月里走西口，提起哥哥走西口，两眼眼泪旺流。

(中略)

哥哥你走西口，万莫要交朋友，交的朋友多，生怕忘了奴。

(pp. 167-168)

“娶”の対象である点（或いは“哥哥”を想っている点）から、本例の“奴”は既婚女性の自称であろう。

4 結 語

以上で見てきた用例において、確実に女性を指している“奴”が多く見られたのに対し、男性の自称であると積極的に解釈すべき“奴”は存在しない。このことから、信天游中の“奴”も、近代漢語のそれと同様に、女性の1人称代名詞であると言ってよいだろう。

結婚の有無に関しては、既婚者と解釈できる“奴”が多くを占めると言えるが、用例7, 8, 10のように未婚者を指すと思われるものもある。現段階では、“奴”は既婚者が用いる傾向が強い、という表現に留めておくのが無難であろう。

参 考 文 献

- 高杰 (1998) 《陝北信天游源流疏》《延安大学学报 (社会科学版)》1988-4: 47-50.
龙云 (2015) 《信天而游》西安: 陝西师范大学出版总社有限公司.
増野仁, 孟子敏 (2006) 「近代漢語における女性を指す人称代名詞『奴』について」城生佰太郎博士還暦記念論文集編集委員会 (編) 『実験音声学と一般言語学』: 412-423. 東京: 東京堂出版.

王克文、于志明（1987）《信天游》北京：中国民间文艺出版社。

王六（2019）《陕北回眸：信天游说》北京：商务印书馆。

杨瑾编（1995）《露水地里穿红鞋－信天游曲集》北京：人民音乐出版社。

《中国民间歌曲集成》全国编辑委员会、《中国民间歌曲集成·陕西卷》编辑委员会（1994）《中国民间歌曲集成·陕西卷》（上下卷）。北京：中国 ISBN 中心出版。

[謝辞] 本稿は2019年度松山大学特別研究助成の成果である。また本研究で用いた資料の一部は JSPS 科研費（17K13452）の援助も受けている。